

解答

一

- 問一 ① 招待 ② 気味 ③ 返（す） ④ 自適 ⑤ 根
問二 ① ア ② エ ③ ウ ④ イ ⑤ ア
問三 ① 上の ② 着ています ③ 建物は ④ ごらん ⑤ 降るらしい

二

- 問一 ア 遠くはなれて イ 洋風化 ウ 海外旅行 エ はらん
問二 I ウ II イ III ア IV オ
問三 自分だけのことわざ
問四 ア 目の前 イ 我まん ウ つぎつぎ
問五 具体例を抽象化し、さらに、これを定型化
問六 エ
問七 イ
問八 ア 理解 イ 基準 ウ しょ民
問九 イ

三

- 問一 まっ黒になってしまった自分の姿を見たくないから。
問二 白の姿を映すものは到るところにあるから。
問三 ウ
問四 a エ b ア c イ
問五 ウ
問六 ア 名前 イ 見殺し ウ まっ黒
問七 臆病を恥じる気が起ったから。／黒い自分を殺したいから。
問八 エ
問九 イ、力

解説

二

問三 傍線②を含む段落と、本文最後の段落で同じ内容を述べています。「具体的経験をそのままにせず、整理して、公式化しておく」と生活の知恵になる。」という内容は、「具体的事象、経験を一般的命題へ昇華して、自分だけのことわざの世界をつくりあげる。」と言い換えることができます。「生活の知恵」に該当する部分は「自分だけのことわざ」になります。

問八 ア、イについては、傍線⑤より四つ前の段落にある「現実の理解、判断の基準として有益だからである。」という一文に着目して答えます。ウについては、直前の「しょ民の知恵」という文言から抜き出しましょう。

三

問七 白の独言が書かれた段落に着目します。「それは一つには、戦ったりしました。」の部分から理由に該当する二つの箇所を適切な形にまとめます。

問九 選択肢アの「もう二度と黒い体に悩まされることはない」という内容は本文から読み取れません。選択肢ウの「なぜ黒い体になってしまったかはまったく分からない」という記述は、本文中盤の白の独言と異なるので、誤っていることがわかります。選択肢エの「もう離れ離れにならないのだ」ということも本文から読み取れず、選択肢オは「白い体にもどったと喜んで」という箇所が誤っています。適当な選択肢はイ、力となります。